2026年9月、国連総会で世界地図の描き方を問い直す決議が採択されました。
本シンポジウムでは、この決議を手がかりに、
富山大学人文学部の教員が、人文地理学、フランス語圏文学、心理学、国際政治学の視点から、
地図と表象・認知・権力の関係を考えます。

地図から考える世界の描き方

～表象・認知・権力を問い直す～

ハイブリッド開催

日時: 2026年12月23日（水）14:00

場所: 人文学部棟第四講義室

ミーティングID: 853 7342 5999
パスコード: 076337

zoom用参加QRコード

鈴木晃志郎　人文地理学
「地図を正す（Correct the Map）運動をめぐる「地図の政治」」

須永修枝　国際関係学
「世界を描き直すことは、何を変えるのか」

坪見博之　心理学
「地図上の大きさに人は何を投影するのか」

福島亮　フランス語圏文学
「別の地図を透かし見る――作家サミ・チャックのトーゴとラテン・アメリカ」

大西宏治　人文地理学
「地図投影法は世界の何を変えるのか？：イコール・アース図法の役割とこれから」

討論者　太田弘(慶應義塾大学普通部 教諭)

問い合わせ：富山大学人文学部 須永研究室
メール：nobue@hmt.u-toyama.ac.jp